

第3学年 国語科学習指導案

日 時： 令和6年 10月30日（水）

学 級： 3年2組 27名

会 場： 3-2教室

指導者： 尾久第六小学校 3年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(説明的文章)」を通して～

1. 単元名 食べ物のへんしんブックを作ろう

教材名「すがたをかえる大豆」 国分 牧衛

「食べ物のひみつを教えます」

2. 単元の目標

知識及び技能	・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。((1)カ) ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。((3)オ)
思考力、判断力、表現力等	・目的を意識して、中心となる語や文を見付ける。(C(1)ウ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (C(1)オ) ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで、段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(B(1)イ)
学びに向かう力、人間性等	・粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見付けたり、それらを明確にして、文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 段落の役割について理解している。((1)カ) ② 辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ) ③ 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) ④ 比較や分類の仕方を理解し使っている。((2)イ)	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の工夫を考えている。(C(1)オ) ③ 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えたりしている。 (B(1)イ)	① 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見つけてようとしている。 ② 粘り強く書く中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

4. 児童の実態

1学期までに、各教科で自分の考えをもち、対話や3人グループの話し合いの場面を設けることで、ほとんどの児童が学習課題について、考えをもち、表現する力が伸びている。また、感想や考えを書いたり、記述できる振り返りカードを使用したりすることで、自分の考えを50文字～100文字程度で書くことに慣れてきている。

しかし、1学期の国語テストの平均が、文学的文章が91.5点、説明的文章が79点と、10点以上の差が見られた。点数の差が出ている要因として、「どのように」などの抽象的な問いに対して、適切に答えることができないこと、「終わり」に筆者の考えがあることなど、説明的な文章の構造などが十分に理解できていないことなどが考えられる。本単元に入る前に、1学期で扱った「文様」について筆者の説明についての工夫についてレディネステストを実施した。

問い1 この文しょうは、大きく三つ(初め・中・終わり)にわけられます。(中)にあたる 段落番号を、①～⑤から全てえらびましょう。

→説明文の構成(初め・中・終わり)が理解できているか。 正解 25/27名 (92%)

問い2 文様の多くには、どのようなねがいがこめられていますか。

→文章を読み取る力、本文のキーワードを捉えられているか。 正解 22/27名 (81%)

問い3 「あさの葉」の文様は、どんなことをねがう文様ですか。

→「問い」に対する「答え」を理解できているか。 正解 25/27名 (92%)

問い4 筆者の考えは、どの段落に書かれていますか。段落番号を、①～⑤からえらびましょう。

→筆者の主張がどこに書かれているかを読み取ることができているか。 正解 21/27名 (77%)

問い5 文章に出てきた文様の中から、一番きょうみをもった文様と、その理由を書きましょう

→自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫できるか 正解 25/27名 (92%)

問い6 あなたはこの文章を読んで、筆者のせつめいのしかたには、どのようなふうがあるでしょうか。

(いくつ書いてもかまいません。)

→文章の書かれ方の工夫に気付くことができるか。 正解 22/27名 (81%)

文章全体の組み立て(10名) 段落の組み立て(4名) 言葉の使い方(7名)、写真の使い方(1名)

5. 単元について

本単元は、例の書かれ方に着目して、「すがたをかえる大豆」を読んで説明のしかたの工夫を見つけ、「食べ物のひみつを教えます」では、それらをいかして自分が選んだ身近な食材について調べて、説明する文章を書くという構成になっている。

説明の工夫を見つけるためには、文章全体の構成、段落の分け方、言葉の使い方（題名、繰り返し出てくる言葉）、などに着目することが必要である。第2時～第5時までには、説明的文章の構造と内容の把握、精査・解釈をきちんとおさえる。

「初め・中・終わり」に分けたり、例の順序を考えたり、筆者の説明の工夫を考えたりする場面では、互いの考えを出し合い交流する中で、新たな気づきや発想が生まれるようにしていく。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

・文章構成の可視化

「初め・中・終わり」の文章構成について、小グループで話し合った後、構造図にして表すことで、可視化し、理解を深められるようにする。

・言葉集めの環境整備

作り方で出てくる言葉の意味調べを行う。並行読書で他の本を読んで、分からない言葉が出てきたら、国語辞典で調べられる環境を整備する。調べた言葉は、カードに書き、教室掲示をして、共有できるようにする。食べ物へんしんブックを作るために、分かりやすくするための言葉（「つぎに」「さらに」等）を集め、教室掲示をする。本単元以外でも活用できるようにする。他のすがたを変える食べ物の本を30冊程度用意し、朝読書やマスタータイムで並行読書を行う。第6時までには自分が調べたい食材が決められるように、第1時が終わった後、教室に常時本を置いておく。

(2) 単元構成の工夫

・学習のゴールを見せる

単元の最初に、指導者が作成した食べ物のへんしんについてまとめたリーフレットを見せ、友達に分かりやすいリーフレットを作るために、「すがたをかえる大豆」を読んでいくことを伝え、活動の見通しをもち、意欲的に取り組めるようにした。

・ワークシートの活用

食べ物へんしんブックをつくるためにつながるように、第3時のワークシートを「工夫→作り方→食品」が分かる表にする。また、第8・9時でも同じ表を使用し、「読むこと」から「書くこと」につなげられるようにする。作り方の情報は多くなりすぎないように、表に書ける行数を調整する。また、調べた食品をどの順序で紹介するかを考えるために、食品ごとに表を切れるようにして、順序を考えられるようにする。振り返りの仕方を掲示し、記述式の振り返りシートを活用し、毎時間のめあてについて振り返る。

(3) 学びを深めるための工夫

・学習形態の工夫

自分の考えをもつ場面の後、3人グループで話合う場面を設ける。話し合ったことをA4またはA3判のボードに記入し、全体で共有できるようにする。

・ICTの活用

教師用デジタル教科書に、マイ黒板という機能がある。文章を切り取ったり、書き込んだりすることで、繰り返し出てくる言葉などを、分かりやすく提示する。

・毎時間、板書を写真に撮り、電子黒板に掲示し、前時までの学習を振り返りやすくする。

7. 単元の指導と評価の計画

時	目標◆・学習内容	評価			
		知 ・ 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 <評価方法>
1	◆教材文を読んで、おおまかな内容をとらえるとともに、学習の見通しをもつことができる。				
	・教材文を読み、いちばん驚いたことと理由を書く。 ・単元のゴール(食べ物へんしんブックを作る)を提示し、学習課題を設定したり、学習計画をたてたりする。 ・難語句を国語辞典で調べる。	②			◎比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 <ワークシート・観察>
2	◆段落相互の関係に着目し、文章全体の組み立てをとらえることができる。				
	・「初め」「中」「終わり」に分け、文章の組み立てをたしかめる。	①			◎段落の役割について理解している。 <ワークシート・観察>
3	◆「中」に書かれている具体例をとらえることができる。				
	・「中」で挙げられている具体例を「工夫」→「作り方」→「食品」の3観点で読む。		①		◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。<ワークシート・観察>
4	◆「初め」「中」を読み、文章全体の「中心」となる話題やその書かれ方について捉えることができる。				
	・「初め」に「問い」を入れるとしたら、どこにどのような文を入れるか考える。				
5	◆例がどのような順序で書かれてあるかを考え、事例の順序に筆者の意図があることに理解することができる。				
	・どのような順序で例が挙げられているのかをとらえる。		②		◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の工夫を考えている。 <ワークシート・観察>
6 本 時	◆「すがたをかえる大豆」の説明の工夫について考え、まとめることができる。				
	・筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。		②	①	◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の工夫を考えている。 ◎目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。 <ワークシート・観察>

7	◆食べ物のへんしんブックを作るために、これからの学習への見通しをもつことができる。			
	・「すがたをかえる大豆」で学んだことを振り返り、学習のめあてを確かめ、学習計画をたてる。			
8	◆自分が選んだ材料について調べることができる。			
	・題材に関する本を読み、調べて分かったことをメモに整理する。	③		◎幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 ＜ワークシート・観察＞
9	◆集めた材料についての情報を整理することができる。			
	・メモを基に、おいしく食べる工夫と具体例を結び付けてまとめる。	④		◎比較や分類の仕方を理解し、使っている。＜ワークシート・観察＞
10	◆分かりやすい文章の組み立てや例の書き方を理解し、よりよい組み立てや書き方を考えることができる。			
	・文章の組み立てと具体的な例の書き方や順序を考える。	②		◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えたりしている。＜ワークシート・観察＞
11 ・ 12	◆選んだ食材について、事例を挙げながら表現を工夫して文章を書くことができる。			
	・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。		③	◎粘り強く書く中心を明確にして文章の構成を考え、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。 ＜ワークシート・観察＞
13	◆文章を読み返し、推敲することができる。			
	・書いた文章を推敲チェックシートに従って推敲する。			
14	◆文章を読み合い、互いの文章のよいところについて伝え合うことができる。			
	・完成した文章を読み合い、書き方と内容の両面から互いの文章のよいところを伝え合う。			

8. 本時の学習 (6/14)

(1) ねらい

「すがたをかえる大豆」の説明の工夫について考え、まとめることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価 <>評価方法
5分	○本時の学習のめあてを確かめる。(5分) 筆者のせつめいの工夫について考えよう。	※前時の学習までをICTを活用し、振り返り、本時のめあてにつなげられるようにする。
35分	○音読をする。(5分) ○筆者の説明の工夫を考える。(7分) C1「中」でおいしく食べるための工夫を書いている。 C2「中」は、作り方が簡単なものから難しいものになっている。 C3 食べ物ごとに段落をかえている。 C4「次に」「さらに」などの文をつなぐ言葉を使っている。 C5「～する工夫」という言葉を段落の最初に書いている。 C6 文章の下に、その食べ物の写真を使っている。 ○3人グループで工夫について話し合う。(10分) ○全体で工夫をまとめる。(10分) ①文章全体の組み立て ②段落の組み立て ③言葉の使い方 ④写真の使い方 ○なぜ、筆者はたくさんの工夫をしているのかを考える。(3分) C1 読んでいる人に分かりやすく伝えたいから。 C2 読みやすくしたいから。	※1つの工夫に1つのカードに記入していく。 ※話合いで出たカードを4つの分類に分けていく。 ★「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の工夫を考えている。 ★目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、学習の見通しをもって、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。 <ワークシート・観察>
5分	○本時を振り返り、次時への見通しをもつ(5分)	※今日の学習をいかして、次時から「食べ物へんしんブック」に作り始めることを伝える。